

2021/3/23

(うと Q 世話し 世界に己だけの孤独)

ネット閲覧中に或記事が目に留まりました。

「個人情報漏洩」

我が国の或 SNS の記事内容が、考え方を異にする他国内の委託先に閲覧可能になっていた事が原因で、我が国の自治体の多くが、その SNS 以外に切り替え始めたというのですが、その理由の一つに

「コロナ渦で急増している若年層の自殺相談窓口に寄せられた「家族にも言えない」極めて個人的な情報が含まれている為」

というのがありました。

「相談窓口の中で信頼関係が成立する第一要件は「秘密厳守」故、切り替えざるを得なかった」

との事。

しかし、この記事を読んで「んっ？」と思った事があります。

「家族にも言えないから、赤の他人に相談する？」

「何故？」

「恐らく家族との間に利害関係が存在するから」

「どんな？」

「それは千差万別だから考えても仕方無い」

「何故存在するのか？」

「力関係が生じている、詰まり勝ち負け関係が生じているから。そもそも利害関係ゼロというのはいり得ないから、そのバランスが悪い事になる」

「バランス？」

「利害の遣り取り (give and take) が消滅して、「利」側と「害」側が固定してしまう関係。天秤で言えば、どちらか片方に傾いたまま動かなくなっている状態」

どうやらそれを逃れて赤の他人に相談に行っている様な気がします。

しかし自らの経験からすると

「それは一時のガス抜きにしかならない。一時的に気は落ち着くが、家庭に帰れば元の木阿弥」

あく迄も解決を望むなら

「利害関係当事者と直接話をしないと何も解決はしない」

というのが自分の経験則上の答えです。

無論それは「家庭自体が自殺の原因の一端」である場合です。

しかし今の我が国では、色々な問題の発端原因を突き詰めていくと「家庭内問題、特に親子関係に端を発するもの」が極めて多い気が致しております。それで、この様な書き方になってしまったのですが。

先にも申しました通り、利害関係というのは決してゼロにはなりません。相手が誰であれ必ずや、その相手との間に存在するものです。

なので、それを消す努力を幾らしても「骨折り損の草臥れ儲け」になるのが関の山で、後は「利害関係のバランスをどう取るか？」

でしかない様に思われます。

之又先の例で言えば、天秤の一方的傾き固定状態を「偶には右、時には左で、結果多少揺らぎながらも釣り合う状態を保つ」様にするのが理想。

ですが、常時均衡は難しいので「ぎったんばっこ」のシーソー的交互入替状態が現実的かもしれません。

この相互均衡、主客交互入替状態の別名が「コミュニケーション」

処が今、その主客の入替がありません。

「客」が存在していないからです。家庭内ですら。

「目の前の相手は自分色に塗り替えられた架空のアバターで、結果世界はリアルと自己都合の二重構造となり、行けども、行けども生身の人間に出会わない、世界に己だけの孤独」それは相手も同じ。

互いに相手を追い出し合っている結果なのかもしれません。